

長野県山岳総合センターについて

～指定管理者制度導入初年度における概況と今後の展望～

1 山岳総合センターの概要

設置規定	長野県山岳総合センター条例
設置目的	山岳に関する研究及び調査並びに安全な登山に関する知識及び技能の普及啓発その他の山岳における野外活動に関する教育事業並びに山岳における野外活動に関する普及事業を行う。
設置年月日	昭和 44 年 5 月 23 日
所在地	大町市
敷地面積	1,808.00 m ²
建物面積	1,086.80 m ² (鉄筋コンクリート 3 階建て)
宿泊定員	64 人
野外施設	人工岩場
その他施設	教室、講堂、体験室 (ボルダリング壁)



2 指定管理者制度の導入

(1) 指定管理者

「長野県山岳協会・やまたみ」(代表者:長野県山岳協会会長 宮本義彦)

(2) 指定管理期間

平成 24 年 4 月 1 日から平成 27 年 3 月 31 日まで

(3) 指定管理料

25,700 千円 (平成 24 年度)

3 平成 24 年度の事業運営について

(1) 運営態勢

(ア) 指定管理者「長野県山岳協会・やまたみ」について

「長野県山岳協会」と「NPO 法人信州まつもと山岳ガイド協会やまたみ」で構成する組織

(イ) 運営懇談会

県山岳総合センターの事業運営について協議するため設置（従来から設置）

- ・委員…山岳関係の専門的知識を有する者（9名）
- ・会議…年2回程度開催

(ウ) 職員態勢

4名（フルタイム3名、パートタイム1名）

(エ) 運営経費

指定管理料、施設利用料及び主催事業の参加費で運営

(オ) その他

開館時間 9：00～20：00（月曜日は休館日）

(2) 事業内容

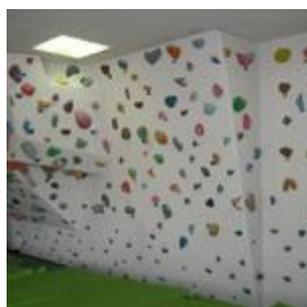
(ア) 施設利用事業（登山や自然保護活動の団体等の研修に利用）

施設名	場 所	利用時間及び料金	H24 目標	H24.4～8 実績 (前年同期比)
教室・講堂・ 体験室	山岳総合 センター内	○ 9:00～12:00 2,700 円 ○13:00～16:00 2,700 円 ○17:00～20:00 2,700 円	人 600	人 359 (223)
ボルダリング壁		○9:00～20:00 100 円（1回1名）	1,500	936 (718)
宿泊室		○一 般 : 900 円（1人1泊） ○小中高校生： 450 円（1人1泊） （別途クリーニング代等 500 円）	400	205 (190)
人工岩場	大町市 運動公園内	○4・9月 9:00～18:00 無料 ○5～8月 9:00～19:00 無料 ○10～3月 9:00～17:00 無料	2,500	1,393 (1,518)

※利用料金は、長野県山岳総合センター条例で定める金額



教室・講堂・体験室



ボルダリング壁



宿泊室



人工岩場

(イ) 主催事業

ア) 安全登山系の講習会の開催（有料）

従来取り組んできた講習会は基本的に継承し、登山者のニーズに合わせて、開催回数を増やすとともに内容の充実を図った。

【平成 24 年度の計画】

講座の対象者		H24 計画		H23 実績	
		回数	延日数	回数	延日数
A	集団登山引率者	3	3	2	2
B	小中高生	4	6	3	5
C	一般登山者	35	74	11	28
G	指導者	3	5	3	5
計		45	88	19	40

【平成 24 年 4 月～ 8 月までの実績】

講座の対象者		実施				参加者の内訳				
		回数	定員	参加者数	比率 (%)	男	女	県内	県外	平均年齢
A	集団登山引率者	3	60	56	93.3	37	19	56	0	—
B	小中高生	3	80	86	107.5	68	18	77	9	15.7
C	一般登山者	14	325	278	85.5	173	105	132	146	45.0
G	指導者	1	30	13	43.3	11	2	10	3	44.2
計		21	495	433	87.5	289	144	275	158	—



イ) **新** 野外活動系の講習会を開催 (有料)

平成 24 年度からの新規事業として、概ね標高 1,500m 以上の山岳地帯を対象とした自然観察会を、大人向け、子供向けにそれぞれ開催した。

【平成 24 年 4 月～ 8 月までの実績】

講座の対象者		実施				参加者の内訳				
		回数	定員	参加者数	比率 (%)	男	女	県内	県外	平均年齢
K	“信州” 山の自然楽講座	5	150	81	54.0	40	41	76	5	55.3
L	こどものための自然教室	2	40	28	70.0	17	11	4	24	9.6
計		7	190	109	57.4	57	52	80	29	—

(ウ) 調査研究

今後、学校集団登山の実態調査を予定

(3) 各事業の特記事項と評価

(ア) 施設利用事業

- ・ボルダリング壁の利用者は、約 30%増加した。土日を含め夜8時まで開館していることや、大町市及び北安曇郡内の小中学校にポスターを配布した効果が現れている。
- ・大町市内のボランティア団体が、福島県の子供たち 30 名を受け入れて実施した「山の子村キャンプ」に宿泊施設を無償で提供した。
- ・安全確保のため、人工岩場とボルダリング壁のホールド点検を毎月行うこととした。

(イ) 主催事業

- ・集団登山引率者対象講習は、場所を変えて3回実施したところ、参加者が増えた。
- ・小中高生対象講座では、クライミング講習の人気の高い。また高校山岳部からの参加人数が大幅に増えている。
- ・一般登山者対象の講習会は、有料にして回数も増やしたが、若年層を含めて定員の85%程度の参加者がある。
- ・野外活動系の講習は、安全登山系の講習に比較すると参加者が少ない。

(ウ) その他

- ・今年度から新制度がスタートした「信州登山案内人」試験で、試験問題の検討、事前説明会、実技試験、合否判定に職員を派遣した。
- ・学校体育・スポーツ研究協議会、長野市教育センター研修講座などに職員を派遣した。
- ・夏山での安全登山のため、「安全で楽しい登山のために」というリーフレットを作成し、北アルプス北部登山口7カ所で4,000枚を配布した。

4 今後の取り組みについて

(1) 安全登山の啓発について

最近の登山ブームや自然志向の流れの中で、山岳総合センターの安全登山啓発に対するニーズは高いと感じている。今後は、講習会を開催するだけでなく、安全登山のための知識や技術を広く発信する取り組みを強化したい。

(2) 管理運営全般について

(ア) 11月までに、来年度の事業計画骨子を作成し、運営懇談会の意見を伺いながら具体化させたい。

(イ) 建物設備、備品など全ての物が老朽化している。資金の許す範囲で更新するものは更新し、改修が必要なものは県にも相談しながら進めていきたい。